

済生会宇都宮病院のトリアージの実際 ～事後検証と教育について～

済生会宇都宮病院 救急外来主任
救急看護認定看護師 阿相 忠輔

発表概要

当院では、トリアージナース導入に向けて2006年にワーキンググループを発足し、2007年6月からトリアージ教育を開始、10月から独自の基準を作成し導入した。現在は、緊急度判定のツールとしてJTASを活用し、直接来院した患者すべてにトリアージを実施している。トリアージ実施後は、トリアージ記録から事後検証を行っている。検証を行うことは、院内トリアージの質の向上やモチベーションの維持、また、継続教育の一つとしても重要なことである。検証は、まず部署内の救急看護認定看護師及びJTASコースを受講した看護師が一次検証、その後医学的判断が必要な症例については医師を交えて二次検証を行う。検証症例は、アンダー・オーバー・あっぱれ・判断に困った・珍しい事例の5種類に分けて実施している。検証会終了後は、検証結果をスタッフ全員に周知し、情報共有を図っている。この一連の流れが継続教育となっていると考える。

今後の課題としては、現在内科のみの検証に留まっているため、全症例の検証を実施し、トリアージの更なる質の向上を図ることである。また、今後も医師と協同し、教育の拡大を図りたいと考えている。

今回は当院で実際に行った検証症例を交えた現状報告を行い、その後参加した他施設の事後検証やトリアージ教育などについてどのような方法を用いているか意見交換を行った。